

# 多文化家族支援

## ハンドブック



NPO法人 多文化共生教育ネットワークかながわ

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



1. 総論 外国につながる高校生とその家族の支援に向けて——問題の背景と心構え .....	2
(1) 状況の把握と信頼関係の構築 3	
(2) 家族全体を見据えた支援と学校生活についての情報収集と提供 4	
(3) キャリア形成につながる支援 5	
2. 高校生活 3 年間の流れ .....	7
3. 子どもの学校生活 .....	8
(1) 授業 8	
(2) 課外活動 11	
(3) 進路指導 12	
(4) 日本の学校の特色（日本の学校文化） 14	
(5) その他の行事 16	
(6) 最後に：基本的な学校生活の送り方 18	
4. 主な年間行事 .....	20
5. 情報のページ .....	21
6. よくある質問 Q&A .....	22

相談者／外国出身で、初めて子どもを  
学校に入れる保護者



支援者／子どもを日本の学校に入れて、  
すでに卒業させた外国出身者



## 1. 総論 外国につながる高校生とその家族の支援に向けて——問題の背景と心構え

外国につながる子どもの支援といったときに、皆さんはどのような問題を思い浮かべるでしょうか。まず言語の問題といったことが思いつくかもしれません。あるいは文化の違いといった問題も思いつくでしょう。他にも、経済的な問題や在留資格の問題、学校行事に関する価値観の差異など、さまざまな問題を思い浮かべた方がいるかと思います。外国につながる子どもが抱える(抱えさせられる)課題は、ひとつではありません。そしてだからこそ、複雑で解決が難しいのです。

たとえば大学や専門学校への進学の問題ひとつをとってみても、さまざまな問題がそれを難しいものになっています。保護者も子どもも、日本の教育については知らないことだらけです。大学や専門学校への進学については制度も複雑で、言葉も難しく、進学制度や手続きを完全に理解するのはかなりの困難が伴います。また厳しい経済状況の中で暮らしていたり、子どもの人数が多かったりする家族にとって、大学や専門学校のための学費を用意することはかなり難しいです。その場合、前々から計画的に準備しなければなりません、やはり学費や奨学金についての情報を事前に得ることは難しい場合が多いです。

それなら情報を獲得できるように日本語を勉強すればいいと思うかもしれませんが、外国人は不安定な職に就いていることも多く、もし仕事を休めば真っ先に退職させられてしまう対象になりがちです。日本人が仕事をしながらない夜間や土日に仕事が割り当てられることも多く、ただでさえ出身国とは異なる環境の中で心理的負担も大きいのに、身体的な負担や時間的な制約も大きくなっています。そのような状況のなかで日本語の学習を進め、教育に関する情報を収集したり、保護者向けの進学ガイダンスに参加したりすることはとても難しいのです。そのなかでただ単に「学校での面談に来てください」と伝えるだけでは、状況は改善しないでしょう。

子どもたち自身も、仕事で忙しい保護者に成り代わって弟妹の面倒をみなければならなかったり、行政手続きの際には日本語の理解が難しい保護者に付き添わなければならなかったりするなど、家族の中でさまざまな役割を担っていることが多く、自分の問題を後回しにしなければならないこともあります。いつか帰国するかもしれないと保護者から聞き、進路選択以前に、日本に残るのかどうかもわからず、勉強に身が入らないということも多いです。

このように外国につながる子どもが抱える(抱えさせられている)課題は複雑で、一筋縄ではいかないものです。言語的・文化的問題や学校行事に関する価値観の差異はもちろんのこと、その家族やコミュニティの問題、就労状況の問題、経済的な問題、在留資格の問題など、さまざまな問題が重なり合いながら、外国につながる子どもの

課題が生まれています。こうした状況の中で、日本人の側から一方的に子どもたちに「同化」や「適応」を要求するのではなく、学校が外国につながる子どもにとって過ごしやすいものとなるよう、文化的にも、経済的・社会的にも多様化しつつある家族の在り方に対応したものとなるよう、日本の学校そのものを変革していくことは欠かせないでしょう。

その前段階として皆さんが最も戸惑うことは、外国につながる子どもたちを取り巻く複雑な状況のなかで生じている目下の問題をどのように解決していくべきなのかという点でしょう。私たちの団体には、外国につながる子どもの教育についての相談が、支援者や学校の先生方、そして保護者から多く寄せられてきました。そのなかで私たちが痛感したのは、外国につながる高校生が実に多様な困難を抱えており、支援者や先生方、保護者もさまざまな戸惑いを感じていますが、しかしその一方で、外国につながる高校生の支援に向けた資料はほとんどないということでした。この冊子は、少しでも外国につながる高校生たちを支える周囲の方々の方々の力になりたい、高校生たちの生きる世界を少しでも過ごしやすいものとしたい、そうした執筆者たちの願いから書かれたものです。

そこで、まずは外国につながる高校生たちを支援するうえでの大きな方針を、3つのポイントに分けて説明します。それは第一に状況を把握し信頼関係を築くこと、第二に家族全体を見据えた支援と学校生活の情報提供、第三に多様な進路の伝達ということです。下の図に示したように、とりわけ第一の点がすべての基礎となり、それが学校生活の指導、そしてさらに進路指導へとつながっていきます。



## (1) 状況の把握と信頼関係の構築

外国につながる子どもの支援において最も重要なのは、まず子どもの置かれている状況を把握し、子どもたちと信頼関係を築いていくことです。外国につながる子どもは、多様な生活環境のなかで暮らしており、またさまざまな家族観・教育観、文化的

背景のもとで生活しています。日本では就労状況が不安定であったり、言葉や制度の壁もあたりするため、同じ出身国の人々と互いに助け合いながら暮らし、子どもであっても家族やコミュニティの中でさまざまな役割を担っている場合も少なくありません。

したがって、まずは、子どもたちの置かれている生活環境や文化的背景をしっかりと認識することが大切です。学校を休みがちであったり、学校行事へ参加しなかったり、支援のなかで「どうしたのだろう」と感じることもあるかもしれません。そのときはぜひ、子どもや保護者と積極的に話し合う場を設けてください。背景に、文化や宗教の違い、厳しい就労・経済状況などがある場合もあり、どの問題でも簡単に解決するというわけにはいかないかもしれません。ですが、子どもたちの置かれている状況を少しでも知っておくことで対応の仕方、周囲への相談の仕方も変わってくる可能性があります。長期的に見れば、そうした情報を蓄えていくことで、外国につながる子どもにとってより過ごしやすい学校へ向けて、学校そのものを変えていく道筋も見えてくるかもしれません。

また、そうしたなかで積極的に子どもたちの話を聞き、子どもたちと向き合おうとする先生や支援者の姿勢が、子どもたちが安心感をもち、先生や支援者に心を開くきっかけとなります。外国につながる子どもの家庭には、将来帰国するかどうかわからない、進学するための学費が準備できない、夜の時間帯や土・日曜日に保護者が在宅できないなど、難しい事情を抱えている場合も少なくありません。特に学費の問題などは早く対応していかないと手遅れになってしまうこともあります。そうした状況は生徒やその家族と信頼関係を築いてこそ、初めて見えてきます。子どもたちときちんと向き合い、子どもたちの置かれている状況を把握し、信頼関係を築いていくことが、第一に大切なことです。

## **(2) 家族全体を見据えた支援と学校生活についての情報収集と提供**

外国につながる子どもの場合、その社会的・文化的な背景から日本での学校生活においてさまざまな困難に直面することがあります。たとえば、難しい日本語を理解できない保護者が行う行政手続きに同行しなければならず、学校を休まざるを得ないというケースもあります。そういった場合、どんなに「学校を休まないでください」と生徒に伝えたり、保護者に連絡したりしたとしても、問題は解決しないでしょう。保護者に対し外国語で対応してくれる窓口や通訳を紹介したり、そういった問題に取り組んでいる団体につなげたりするなど、家族全体を支えていく別の方法を提案することが求められます。外国につながる子どもの場合、往々にして、一見遠回りに見えるその家族全体の支援を見通していくことが、実は一番近道になっています。面談などの機会を通じて、子ども自身だけでなくその家族がどのような状況にあるのか、どのような困難を抱えているのかを、通訳を活用するなどしてしっかりと把握するよう努



めてください。

また、面談では子どもや家族の情報を受け止めるだけでなく、学校生活についての心得を積極的に発信していくことも欠かせないでしょう。たとえば文化祭や体育祭、清掃などは日本の学校では当たり前のことになっていますが、海外の学校では決して当たり前ではありません。日本の学校にどのような行事・活動があるのか知らなかったり、それらのイメージや意義がわからなかったりするために、生徒も保護者も学校の行事や活動に積極的に参加できないということもあります。面談を通じて、日本の学校の行事や活動についてより丁寧に伝えていくことが重要です。

さらに場合によっては、多くの人に参加しやすいように行事や活動そのもののあり方の見直しが必要なこともあるでしょう。外国人の場合、たとえば仕事を休むと真先にリストラの対象となったり、日本人が仕事をしながら日曜日に仕事が割り当てられたりするなど、どんなに学校行事に参加しようとしてもそうできない事情があることが多いです。時間はかかるかもしれませんが、外国につながる家庭も学校行事に参加することができるよう、学校行事の日程や、あるいは行事そのもののあり方を変えていくなど、長期的な見通しを持って学校側が多様化する家族に対応していくことが欠かせないでしょう。

### (3) キャリア形成につながる支援

#### ① 就職

外国につながる子どもの場合、保護者や身近な人の職業にしか想像が及ばなかったり、出身国によっては工業やサービス業が活発でないために日本での働き方をイメージしにくかったりするという問題があります。子どもたちが主体的に、自信を持って、自分の希望する職業を選択できるように、日本での就職先としてどのような職業・会社があり、そこではどのような働き方がなされているのかを、日本人以上に具体的に説明していく必要があります。

また大学受験に失敗して就職に変更することや、就職が決まったけれど大学受験をするということは、基本的にはできないということも、1年生や2年生の早い段階から伝えておく必要があります。子どもたちに情報を伝えていても、保護者に伝わっておらず、3年生の大学受験後に初めてその情報を知り、困惑するというケースもあります。面談などの機会を通じて、大学進学か就職かを遅くとも3年生に進学する時点で決めておかなければいけないことを必ず保護者と確認しておく必要があります。

#### ② 進学

外国の学校教育を経験してきた保護者にとって、母国とさまざまな点で異なる日本の入試制度を理解するのはとても難しいことです。日本語がある程度できる保護者に

とつても、入試の言葉は聞きなれない言葉が多く、完全な理解はかなり難しいです。また大学入試は高校入試より試験や奨学金のあり方がはるかに多様です。外国につながる子どもの場合、一般入試や AO 入試、推薦入試などのほかに、外国人入試が受けられることもあります。そうした情報を知らない家族も多く、大学進学希望があっても断念してしまうケースもあります。

そのため子どもたちがどのような学力状況にあり、家族がどのような生活状況にあるのか、そしてどのような試験や奨学金、教育ローンの可能性があるのかを、先生や支援者、家族、子どもたちの間でしっかりと情報共有していく努力・働きかけが必要です。通訳を積極的に活用したり、あいまいな表現や遠回しな言い方を避けたりして、正確な情報を共有していく工夫も必要でしょう。

外国につながる子どもの大学進学の場合、学費は特に大きな問題となります。大学が無償となっている国も多く、日本の大学の学費がどれほど高いかイメージしにくいという背景もありますし、不安定な就労状況にある家族や子どもの多い世帯、ひとり親家庭にとっては、学費の問題は避けて通れません。大学受験にいくらかかるのか、大学に4年間通い続けるとおおよそいくら必要になるのか、その子どものことだけでなく、弟妹や保護者の年齢も考えて、計画的に貯蓄していくことが欠かせません。大学進学のための学費についての情報が得られず、受験の直前の段階でいきなり学費の問題に直面する家族も珍しくありません。高校進学時には大学受験は経済的に無理だと思っていたけれど、奨学金の情報を正確に手に入れ、早くから進学に向けた貯蓄をしておくことで、大学受験が可能になったケースもあります。そのため学費については、1年生、2年生の段階から情報を伝えていくことが重要です。

最後に、外国につながる子どもにかかわる支援者の皆さんや先生方のなかには、目の前にいる子どもとその家族の抱えている問題を解決することができず、無力感に苛まれたことがある方も多いかと思います。しかし、支援者や先生方がかれらの抱える問題を訴えていくことで、学校、ひいては社会のあり方も少しずつ変えていくことができるかもしれません。いまや、外国につながる子どもの抱える問題は、外国につながる子どもだけのものではなくなりつつあります。たとえば貧困の問題はまさに日本の子どもや若者の抱える問題でもあります。外国につながる子どもにとって過ごしやすい学校を作っていくことが、多様化する日本の家族・子どもにとっても有意義なものとなりえます。

外国につながる子どもにかかわる支援者や先生方は、目の前にいる家族や子どもにとっての支援者・先生であると同時に、社会や学校の変革者でもあります。支援をしていくなかでうまくいかないこともあるかもしれませんが、皆さんの活動の向こうに、日本人も含め同じ問題を抱えるたくさんの子どもと家族がいることを忘れずに、どうかあきらめずに活動を続けていってください。



## 2. 高校生活3年間の流れ

入学式  
各種オリエンテーション  
健康診断  
内科検診・耳鼻科検診・眼科検診・歯科検診・結核検診・  
心電図検査・尿検査・聴力検査・身体測定  
部活動・委員会活動紹介加入  
定期テスト  
文化祭  
体育祭  
履修ガイダンス・進路ガイダンス  
三者面談  
終業式

1年



始業式  
健康診断  
内科検診・歯科検診・尿検査・身体測定・耳鼻科検診・  
眼科検診（枠内は必須項目、その他の検診は必要に応じて実施）  
定期テスト  
文化祭  
体育祭  
履修ガイダンス・進路ガイダンス  
修学旅行  
三者面談  
終業式

2年

始業式  
健康診断  
内科検診・歯科検診・尿検査・身体測定・耳鼻科検診・  
眼科検診（枠内は必須項目、その他の検診は必要に応じて実施）  
定期テスト  
文化祭  
体育祭  
履修ガイダンス・進路ガイダンス  
三者面談  
就職試験  
入学試験  
卒業式

3年



### 3. 子どもの学校生活

#### (1) 授業

##### ① 授業の選択

高等学校の授業科目には、必修科目(全員が取らなければならない科目)と選択科目(進路により選べる科目)があります。学校により異なりますが、1年次は一部(芸術科目など)を除いて、ほとんど必修科目となります。2年次以降は、自分の進路や興味・関心によって科目を選択します。選択した科目は、途中で選択を中止することはできません。



相談者

高校に入ったら、いきなり教科が増えてわけがわからない。子どもは親を見下して、どうせ聞いてもわからないからって、学校の話はぜんぜん話してくれない。

確かにわかりにくいですね。  
日本の学校では子どもに自分で判断して、自分で選択して、自分で決めさせるのね。総合学科とか、単位制とか、私たち外国人には馴染みが薄いですが、学校の先生に聞くのが一番よ。  
日本では、自分から聞かないと誰も教えてくれないのよ。



支援者



#### アドバイスのポイント

日本では、小学校から総合学習や調べ学習に取り組んでいますが、詰め込み学習に慣れているアジア出身の生徒は、そういった訓練は受けたことがないので、学習計画を立てることや、調べ学習や、科目の選択などがとても苦手です。科目選択の作業を一緒に行うことで、考え方選び方を身につけさせることができます。

## ② 出席

年度当初に選択した科目は、必修科目・選択科目もすべて卒業に必要なものです。怪我や病気などで入院したり、家庭の事情で学校に行けなくなることもあると思います。

しかし、学校で決められた教科ごとの欠席時間数を越えて欠席した場合、進級や卒業、単位認定ができなくなることがあります。また、学校で行われる行事は、出席するようにしましょう。授業には欠席しなくても、その他の行事に欠席すると、進学や就職の際不利になります。



相談者

自分の国の小学校は成績が悪いと進級できなかったけど、日本の学校は宿題も少ないし、テストで点数が取れなくても中学を卒業できたわ。高校に入れたからもう安心!!  
毎年里帰りや家族旅行などで学校を休んでも大丈夫よね。

日本の高校は小学校や中学校と違うのよ! テストの点が良くても、授業をたくさん休むと、成績が悪くなるから○君にも注意したほうがいいわ。欠席が多いと、2年生に進級できなかったり、その教科の単位がもらえなかったりするのよ。

担任の先生により、学校により、違うこともありますが、小中学校ほどこまめには連絡は来ません。欠席しないように気をつけないと…。



支援者



### アドバイスのポイント

ここで強調したいのは、中学校のときと違って、出席の管理が厳しいことです。外国人の場合は、もし日本の公立小中学校に通った経験があると、日本の学校は緩いとの認識ができていますので、高校も同じと思いがちです。もうひとつ、外国でも無断欠席は当然マイナス評価になりますが、すぐに保護者を呼びますし、試験に合格すれば進級できますが、日本は違います。アドバイスのポイントは、高校生になったら、担任から小中学校ほどこまめに欠席の連絡は来ないことと、欠席が教科の評定に直結することです。

遅刻や欠席は悪いことだという認識は普通にあります。しかし、欠席が原因で単位を取れないことや、一定の出席がないと進級できないことなどを知らない人が多いと思います。生徒本人がわかっているので、自分に都合の悪い情報を保護者に言わないでしょう。支援者の方には早いうちに保護者に注意してもらいたいです。

しかし、外国につながる子や家族が、親族の行事などで長期間出身国に帰り、親族とのつながりや、自分の継承する文化を吸収するのは、とても大切なことです。学校がこうし

た事情を知るのは大切なことなので、ていねいに説明し欠席が不利に取り扱われないよう働きかけてください。

### ③ 評定 (成績)

教科により評定をつける基準が異なります。評定は各教科・科目の目標に基づいてそれぞれ5段階で表されます。

しかし、ペーパーテストなどの知識だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などの観点による評価を総合的に判断して評定されます。学年末の評定が「1」になると単位不認定となり、進級や卒業ができなくなる可能性があります。



相談者

この間の面談で、先生に成績を見せられたら、国語や理科の点数が「2」となっているの。テストの点数はいつもそれほど低くないのに、どうしてなのかしら？

確かに日本以外の国ではテストの点数は成績に直結しますね。普段の行いや授業態度などは評価の言葉に書かれますが、成績に関係ないから、わかりやすいです。

だけど、日本の場合は総合的に子どもの学力を評価しています。勉強が苦手な子も別の面で評価されるから、モチベーションが高くなります。



支援者



### アドバイスのポイント

特に中国の学校では、学習の成績と学校活動の評価は別々に考えられています。学習に関しては点数化していますが、授業態度や取り組む姿勢などは先生とクラスメートが評価し、学期末の「通知書」に書かれます。スポーツや芸術活動でいい成績を残した場合は、大学入試などで点数に加えられます。そういう背景を踏まえて、日本の「評定」を解説しとあげると納得しやすいかもしれません。

日本では授業態度や意欲なども点数化されています。テストの点数が高くても、欠席が多かったり提出物を出していなかったりすると評価が悪くなります。体育などの実技科目では出席して、積極的に参加することが重要です。体育の技能点は悪くても総合評価は良くなることもあります。

## (2) 課外活動

### ① 部活動

運動系の部活(部活動は一般的には、「部活」と言います)と文化系の部活があります。部活の種類は学校により異なります。校内だけで活動を行う部活もありますが、他校と共同して活動を行う部活もあります。また、活動時間帯も学校や部活により異なります。朝に活動している部活もありますし、土日や長期休暇中に活動を行っている部活もあります。

3年間同じ部活に所属して活動すると、進学や就職の際のセールスポイントになります。また、部活は必ず入らなければならないものではありません。部活に入らないことでマイナスに評価されることはありません。



相談者

うちの子バスケの部活で、帰りは遅いし土曜も日曜も部活があるって言うんだけど。日曜日は家族で教会に行くことになっているのに。

部活に疑問を感じたら、活動中の子どもの様子を見に行ってみるといいわよ。そして、家族の休日の過ごし方や休日に行く宗教的な活動についても、しっかりと部活の先生に伝えて相談してみてね。



支援者

### アドバイスのポイント

休日をつぶしての活動や、協調性・忍耐力を強いる傾向にある日本の学校文化は、外国出身の人にはなかなか理解されないかもしれません。一方で、日本の学校の部活のすべてがこうした価値観を持っているというわけでもありません。部活にはさまざまな活動スタイルや考え方があり、自分に合った活動スタイルの部活を見つけていくこともできます。

もし、外国人保護者が違和感を覚えるようなら、保護者がそれを積極的に学校に伝えるようサポートしましょう。外国人保護者や子どもたちに特定の価値観を押しつけることは避けたいものです。

### ② 委員会活動

生徒会活動は、全校の生徒を会員として組織され、学校における生徒たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指して、生徒の立場から自発的・自治的に行われる活動です。その活動内容は、生徒会の組織づくりや運営です。具体的には、ホームルーム活動や部活動、学校行事の企画・運営、ボランティア活動などが含まれます。



生徒会の組織は、生徒全員を会員とする生徒総会を最高の議決機関として成り立っています。生徒総会で選出された生徒会長・副会長などによって運営されています。具体的な活動としては、「監査委員会」「HR委員会」「文化祭実行委員会」「体育祭実行委員会」「環境美化委員会」「新聞委員会」「保健委員会」「図書委員会」「放送委員会」「選挙管理委員会」「多文化交流委員会」などの専門委員会が置かれています。組織や名称は学校により異なります。

毎年学期始めに各クラスで委員会役員の選出が行われ、総会で承認されます。委員会活動に参加すると、時間が取られますが、それぞれの活動を通して、さまざまな体験学習ができ、人間関係も広がります。さらに進学や就職の際にセールスポイントとなります。

### (3) 進路指導

1年2年3年と学年ごとにホームルームや「総合的な学習」\*の時間で、将来に関することを考えるプログラムが組まれています。高校の担任・学年・進路担当の先生が主に指導します。その他、高校の先輩をはじめ企業や大学・専門学校の方々も来校して説明をすることもあります。将来自分のしたいことを考える良い機会になります。

\*「総合的な学習」の時間では、教科の枠を越えて横断的・総合的に学習を行います。

#### ① 就職

高校生が就職先を探す場合は、アルバイトのときとは異なり、個人的に行うのではなく必ず「学校」を通して行われます。当該年度の卒業生を募集する企業からハローワーク経由で、求人票が学校に送られてきます。生徒は、学校に送られた求人票の中から、自分にあった就職先を探します。高校では、就職担当の先生がいて、その先生の指示に従って活動します。行きたい企業が見つかったら、7月から8月に、企業訪問を行います。訪問した企業が自分の希望とあっていると判断した場合、9月半ばに就職試験を受けます。就職試験の結果「内定」通知をもらったら、その企業に就職することになります。「内定通知」をもらわなかった場合には、別の企業の就職試験を受ける手順になっています。高校生の場合は、一度に試験を受けられるのは、1社か2社です。

家族の関係の企業や事業所の就職試験を受けるときも、「学校」を通して行われます。



相談者

もう高校生だから、将来のことは子どもに任せているわ。  
自分で大学か専門学校か、就職か決めればいいと言ってあるから大丈夫。  
(ほんとうはよくわからないから、関わりたくないの…)

大学も専門学校もお金がかかるわ。私立大学は入学するときに100万円以上かかるし、受験するだけでも1校3万5千円も取られるわよ。お金のことも含めて一緒に考えないと子どもがかわいそうよ。一緒に勉強しましょう。



支援者





## アドバイスのポイント

日本の高校は進路についてあくまでも生徒本人に選ばせるやり方で、専門学校か大学などへの進学にするのか、就職にするのか、かなり早い段階でいろいろな場（授業・説明会・面談）を通して本人に考えさせます。

特に就職の場合、「新卒一括採用」というかなり独特なシステムになっていることは、外国人にはまったく想像もつきません。さらに言えば、アルバイトと正社員の社会保障の相違について知らない人が多いようです。

口では「子どもの将来は子ども自身に決めてもらう」と言いますが、実際のところは保護者の方が日本の事情がわからないから、アドバイスはできないというのが本音かもしれません。

外国人の場合は「在留資格」との兼ね合いもあるので、専門家に相談するようにアドバイスをしましょう。

## ② 進学

進学先としては、専門学校・短期大学・四年制大学があります。専門学校は、調理師専門学校・看護師専門学校・理容師専門学校など職業に密着したことを勉強します。将来の仕事に対して、しっかりとした考えを持っている必要があります。短期大学や四年制大学の場合も自分の希望の進路に沿った学校選びをする必要があります。また、受験方法にもさまざまな形態があります。自分の特性にあった方法で受験することが望ましいです。



相談者

うちの子が今年3年生になりますが、卒業したらどうするかまったく考えていないの。

やはり有名大学に行かせたいと思うんですが、どうすればいいでしょうか。

日本の少子化に伴って大学全入時代に入ったと言われているの。選ばなければどこかの大学に入れるという意味です。

何のために大学に入るか、何を勉強したいのか、お子さんの将来についてよく話を聞いてあげるのが大事ですよ。



支援者



## アドバイスのポイント

国によって大学の入試制度がまったく異なり、ゼロから説明してあげなければまったくわかりません。一般入試には成績の面で難しい場合があることや、自分の長所をアピールできる AO 入試というシステムもあることを紹介してもいいでしょう。

### (4) 日本の学校の特徴 (日本の学校文化)

#### ① 文化祭

運営方法はさまざまに学校により異なりますが、ここでは、ひとつの例として説明します。文化祭は、出席するべき日数に数えられ、休むと「欠席」になります。基本的には、クラス・部活動・委員会などの団体参加となっています。部活動や委員会の催しとしては、日頃の活動を模造紙などに書いて展示します。また、茶道部や調理部などは、茶道のお手前や調理食品を販売したりします。

クラスでは、「お化け屋敷」、「迷路」、「映画」を作ったり「模擬店」などで食品を調理したり販売したりします。クラス参加は、活動形式より、作りあげるまでのクラスメートとの話し合いが大事です。その活動を通して、クラスメートの団結や仲間意識を築き、学校生活に活力を与えます。



相談者

日曜日はみんなでバーベキューに行く予定なのに、子どもが文化祭があるっていうんだけど、遊びだから休んでもいいでしょう？ 家族との行事のほうが大事！

クラスや部活の仲間で力を合わせて企画するから、楽しいのよ。勉強じゃないけどとてもいい経験ができるわ。いろいろな食べものや音楽や劇があって楽しいから、家族みんなで文化祭に行ってみてもいいじゃない。



支援者



## アドバイスのポイント

外国人保護者の中には、文化祭などの学校行事を付随的なものと認識し、学力につながらないし、成績に反映しないので、進学などに関係ないと考える人がいるかもしれません。

文化祭は生徒たちのコミュニケーションの場であり、協調性を育み、友だちを作る良い場でもあります。また音楽や創作活動、日頃の研究活動の発表の場でもあります。さまざまな文化的な取り組みもあり、子どもたちが自分の継承文化を、恥じることなく日本人の子どもたちにアピールできる場にもなります。さまざまな背景を持つ子どもたちが、お互いを理解し合えるチャンスにもなる場です。

### ② 体育祭

小学校では、「運動会」と呼ばれています。体育祭の形態は、学校により異なります。スポーツの順位や得点を競う形から、仮装競争などの「お祭りの」なものを含むものまであります。どちらの形にしても体育の授業の一貫として行われますので、休んではいけません。「走るのは遅いから嫌だ」とか「皆の前でダンスするのが嫌だ」という声を聞きます。しかし、日本では、結果よりその経過が重要視されます。参加することに意義があります。

※多くの学校は、文化祭・体育祭とも生徒会という生徒が運営する組織が企画・運営しています。学校によっては、文化祭と体育祭を「○○祭」という形で同じ時期に行うこともあります。また、最終日の夜に「後夜祭」として、校庭でのキャンプファイヤーやダンス、体育館でのバンド演奏などを行う学校もあります。

### ③ 修学旅行

学校によっては、研修旅行と位置付けています。参加する必要があります。全日制高校では、2年生のときに実施されます。定時制高校では、3年生が多いです。行先は日本各地から海外と学校により異なります。2泊3日から3泊4日の日程です。旅行先により異なりますが、費用は1年生のときから積み立てます。修学旅行の形態は、クラス全体で行動する形より、グループを作って行動する形態のほうが多いです。

授業の一環としての性格から、ホームルームや「総合的学習」「産業社会と人間」などの授業の中で、図書館などの資料を基に事前学習を行います。また時には、学校の先生や外部の講師から旅行と関連のあることを学びます。

費用も時間もかけて成り立っている行事ですので、意義ある行事となるよう先生方も力を入れて指導します。事前準備から旅行中までクラスメートと長い時間一緒にいることになります。友だちを作る良い機会になります。

※「文化祭」「体育祭」「修学旅行」は、学校教育の一貫として行われるため、参加しないと欠席となります。また、同じ作業をすることで、友だちを作る良い機会にもなります。文化祭などの行

事を通して「親友」ができたということを聞きます。さらに、「体育祭実行委員会」「文化祭実行委員会」「修学旅行委員会」などで、係として活躍すれば、進学や就職のときの「自己アピール」となります。「積極的だ」、「活動的だ」、「リーダーシップがある」など、プラスの要素として解釈されることにつながります。

#### ④ 健康診断

日本では、健康診断は教育活動のひとつとして行うことが法律で決まっています。公費で支払われますので、その都度支払う必要はありません。4月から6月にかけて行われます。内科、耳鼻科、眼科、歯科に関しては、それぞれ専門医の診断を受けます。その他結核検診や心電図検査、尿検査、聴力検査さらに身体測定も行います。検診の結果健康に問題があると診断された場合は、専門医で受診をするようすすめられます。

健康維持は学校生活を送る上で重要です。高校在学中の健康診断の記録は、就職試験や大学（短期大学、専門学校）の入学試験時に提出する内申書の記載事項のひとつです。この健康診断の記録がないと、就職試験や大学などの入学試験の際、自分でお金を支払って病院で受けなければなりません。

#### ⑤ 各種講演会

いじめ防止・薬物防止・性感染症予防・喫煙防止など健康に関するものや、交通安全教室・デートDVなど生活に関する特別授業などが1年に1回程度あります。学校外の専門家や学校の養護の先生などによる特別授業です。また、ピアサポートという形で、互いに話し合っって課題を解決する形態のものもあります。

#### ⑥ 掃除

日本の学校では、自分たちが使用した場所は、自分たちで掃除をすることになっています。日常の掃除と学期の終わりの大掃除があります。年度の初めに当番が決められます。先生や友だちとの人間関係を円滑にするためにもさぼらずに行うことが大事です。

学校から、年度初めに2～3枚の雑巾の提出が求められます。古いタオルで作ったり、雑貨店や100円ショップで買うことも可能です。

### (5) その他の行事

#### ① 保護者向け説明会・面談

日本の学校では、保護者の方に応援協力をお願いするのに、1年に1～2回保護者の方への説明会や話し合いを持ちます。全員対象の教育課程説明会や、個別の面談が行われます。担任・保護者・

生徒の三者面談もあります。個別の面談には家庭と学校での様子について共通理解を持つために行うものと、生徒が学校生活で問題行動を起こしたときに行われる生徒指導上の面談があります。

日本の学校は、さまざまな問題相談の窓口になりますから、抱えていることを相談する場として活用すると良いと思います。学校には「通訳支援制度」がありますので、連絡をしておくと母語の通訳を用意してくれます。お子さんの学校での状況を理解し、また家庭の置かれている状況を学校の先生に理解してもらい良い機会になります。家庭での問題が大きくて、学校では解決できない場合もありますが、学校の担任・学年担当・管理職を通して専門の相談機関につないでもらうこともできます。時間的に大変だと思いますが、積極的に参加することが問題解決への道となることでしょう。



相談者

保護者面談に行っても先生が何を言ってるのかわからない！  
小学生のときの保護者会で、先生には「いい子です。よく勉強  
していますよ。」と言われたけど、成績は「3」ばかりだった。  
仕事を休んで保護者面談に行ってもなんにも役に立たない。

テストの成績と授業の出席が悪いと進級も卒業もできないから、保護者会で、先生から話を聞いたほうがいいわ。高校の成績の話は、教科がたくさんあって難しいから、通訳と一緒にいると助かるでしょう。高校で通訳を頼むこともできますよ。学校に行くだけで、先生にも子どもにも自分が子どもに関心を持っていると示せますから。



支援者



## アドバイスのポイント

外国人保護者が説明会や面談に来ないとよく言われますが、その理由は何かを考える必要があると思います。

まず面談のお知らせが日本語だけのものなら、保護者は読めないで、子どもは勝手に



処分してしまいがちです。

それから面談の内容ですが、日本の先生の話は曖昧過ぎて、学校生活や学習成績についてどこがいいかどこが悪いかわからないと嘆く声も聞きます。そうなると保護者は、時間を割いて学校に行く気になりません。

したがって、外国籍の保護者に来てもらうために、通訳を用意していること、ならびに、面談の具体的な内容と目的を母語またはやさしい日本語で直接保護者に知らせることが大事です。

## ② 保護者の活動：PTA

PTAとは、Parents and Teachers Association の略で、保護者と先生とで作られた校内組織です。保護者と教職員で自主的に構成され、両者が対等の立場で活動する団体です。加入は自由です。年会費として数百円を納めます。言葉の問題や仕事の都合で参加するのは、難しいかもしれません。しかし、活動に参加することによって「学校での子どもの様子がよくわかるようになる」「先生と話す機会が増える」「地域とつながりができる」「学習会や研修会に参加できる」、さらに「保護者同士のつながり」ができ、良い相談相手を得られる機会に恵まれます。積極的に参加して日本社会を理解し、さらに出身国の状況を学校の保護者を通して理解してもらう良い機会にしてほしいと思います。

具体的活動としては、年度初めのPTA総会があり、会長・副会長・書記などの本部委員が選出されます。「学年委員」や、学校行事のサポートをする「企画運営委員」、広報誌を担当する「広報委員」、研修を企画する「成人委員」などの活動があります。委員にならなくともそれぞれの行事でできることを協力することもできます。面倒なことにとらえずに肯定的に受け入れて、まずは参加してみてください。

## (6) 最後に：基本的な学校生活の送り方

### ① ルールを守る

日本の法律では、未成年は煙草を吸うことができません。喫煙は、健康を害し他の薬物中毒へエスカレートする危険もはらんでいます（ある調査によると、ヘロインやドラッグの中毒患者の多くは、喫煙者だと言われています）。さらに髪を染めることや、バイク通学も禁止されています。通学時にバイクを利用すると危険が伴います。決められた制服がある場合は、きちんと着用してください。

決められたルールを守っていくことが、本人の立場を良くし、周囲の人に好印象に映ります。ルールを破った場合、家庭謹慎や学校謹慎という指導を受けることもあります。その指導に従わなかったり、行動が改善されない場合、退学を勧告されることもあります。特に暴力行為は厳しく指導されます。





相談者

学校の先生に呼ばれて、何ごとかと思ったら、ただのケンカじゃないか。男の子だし、ケンカになったら手を出したりするくらい、大騒ぎすることないでしょう。

確かに私たちの時代では、結構やんちゃな子が多かったですよ。日本の学校ではルールを守れないことは一番嫌われることです。今は特にいじめや暴力に厳しいです。何をおいても先に手を出したほうが悪いのです。



支援者



## アドバイスのポイント

日本の学校で生活指導を受ける原因として、暴力・喫煙・飲酒と公共物損壊があります。それぞれを説明してあげるといいでしょう。

### ② 欠席・遅刻・早退をしない

学校には、時間通りに休まずに通うことが大事です。授業がわからないから、行っても面白くないから、などの理由で学校を休んだり遅刻したりすると、ますます授業についていけなくなります。時には、学校をやめることにもつながります。日本には、時間に遅れることを嫌う文化があります。

※当たり前(ルールを守る。欠席・遅刻・早退をしない)のことをやり続けることが好印象を与える近道です。また、進学や就職のときにセールスポイントとして機能する側面もあります。

## 4. 主な年間行事

年間行事(一例です。学校により異なります)

	2学期制	3学期制
4月	前期始業式 入学式 健康診断 保護者進路説明会	1学期始業式 入学式 健康診断 保護者進路説明会
5月	体育祭 前期中間試験	中間試験 体育祭
6月	三者面談	保護者面談
7月	進路相談会(2年) 前期期末試験 夏季休業 会社見学	期末試験 芸術鑑賞会 保護者面談 1学期終業式
8月	夏季休業 短期集中講座 インターンシップ	夏季休業 夏季講習 福祉体験学習
9月	防災訓練 芸術鑑賞会 球技大会 地域貢献活動 研修旅行(2年) 前期終業式 秋休み	2学期始業式 文化祭
10月	後期始業式 文化祭 学校説明会	中間試験 地域貢献活動 学校説明会
11月	後期中間試験	修学旅行(2年) マラソン大会
12月	マラソン大会 冬季休業	期末試験 保護者面談 2学期終業式 冬季休業
1月	冬季休業 卒業試験(3年)	冬季休業 3学期始業式 卒業試験(3年)
2月	入学者選抜	入学者選抜
3月	後期期末試験(1・2年) 卒業式 球技大会 後期終業式 春季休業	学年末試験(1・2年) 卒業式 スポーツ大会 修了式 春季休業

日課表 平常授業(短縮授業などは別)

8:35	生徒登校
8:40 ~ 8:45	ホームルーム
8:50 ~ 9:40	1校時
9:50 ~ 10:40	2校時
10:50 ~ 11:40	3校時
11:50 ~ 12:40	4校時
12:40 ~ 13:25	昼休み
13:25 ~ 14:15	5校時
14:25 ~ 15:15	6校時
15:15 ~ 15:20	ホームルーム
15:20 ~ 15:35	掃除

## 5. 情報のページ

■**高校進学ガイダンス** 8月ごろに、以下ホームページに日程と場所が掲載されます。

◎**神奈川県公立高等学校入学選抜制度について**

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/fl60600/>

◎**NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ**

<http://www15.plala.or.jp/tabunka/>

■**外国人のための無料教育相談**

◎**あーすぶらざ**〈横浜市栄区 JR 本郷台駅すぐ〉 電話・メール・FAX・来所による相談

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ

相談時間／10:00～13:00、14:00～17:00(16:30 受付終了) ※日・祝休み

☎045-896-2970〔火～土：日本語〕

☎045-896-2972〔火：タガログ語 水：ポルトガル語 木／土：中国語 金：スペイン語〕

FAX／045-896-2894

Email／[soudan1@earthplaza.jp](mailto:soudan1@earthplaza.jp)

◎**YOKE 情報相談コーナー**〈横浜市西区 みなとみらい駅 徒歩5分〉

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 5F

相談時間／毎月第2・4土曜日 10:00～13:00(12:30 受付終了)

☎045-222-1209〔対応言語：日本語・中国語・英語・スペイン語・ポルトガル語〕

◎**みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ**〈横浜市南区 地下鉄阪東橋駅 徒歩5分〉

〒232-0024 横浜市南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設10F

相談時間／毎月第4木曜日 13:30～15:30(予約が必要)

☎045-232-9544〔対応言語：日本語・中国語・英語・タガログ語・タイ語 他〕

■**プロジェクトK** 日本に在留する外国籍の高校生のビザトラブルの相談

◎**NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ**(教育相談) 協力：神奈川県教育委員会

問い合わせ先〔日本語のみ〕

Email／[chacarera@yk2.so-net.ne.jp](mailto:chacarera@yk2.so-net.ne.jp)

☎090-4000-7438 高橋

■**学習支援教室**

◎**KIF 公益財団法人かながわ国際交流財団** ホームページ

「かながわ日本語教室・学習補習教室・母語教室マップ」 <http://www.kifjp.org/classroom>

■**奨学金**

◎**神奈川県教育委員会** ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f324/>

## 6. よくある質問 Q&A

**Q1**

小中学校では、学校に支払うお金の援助がありました。高校もありますか。高校はいくら位かかりますか。

**A**

小中学校は義務教育なので、授業料、教科書代は無料ですが、高校は有料です。ただし、高校では、「高等学校等就学支援金」という授業料の援助制度があります。入学後に学校で申請をして認められると、公立高校では、授業料が無料になります。私立高校では家庭の収入に応じて、最高約30万円の補助が受けられます。2年次からも毎年、申請が必要です。

全日制公立高校入学時にかかる費用は、教科書代、副教材代、制服代、体操着代などを合わせると年間で約15万円になります。

**Q2**

高校1年生です。いくつかの科目の試験の成績が悪く、このままでは進級できないと言われました。

**A**

高校の成績は、定期テストの成績以外に、出席数や授業での取り組みや課題の提出を総合的に判断してつけられます。授業に意欲的に臨み、提出物をきちんと出し、追試験を頑張れば、単位が取れる可能性は高いです。先生にどうすればいいのか、どこが足りないのか相談することも大切です。

**Q3**

高校2年生です。家庭の経済状況も厳しくなり、全日制の高校に通うのが難しくなりました。働きながら通える学校はありますか。

**A**

夜間の定時制高校や通信制高校で働きながら通う生徒もいます。高校1年生のときに取得した単位が転校しても生かされると、高校卒業までの期間を短くすることができます。取得した単位数について学校の担任に聞いて、定時制や通信制の情報を得ましょう。

高校に1年以上在学して中途退学した後、再び高校で学びたい人は、取得した単位を生かす再入学制度で高校に戻ることができます。詳しくは、神奈川県教育委員会の転編入学情報センターで相談してください。

## Q4

高校1年生の子どもが、学校がつまらないので学校に行きたくないと  
言っています。子どもが母語で話したがないので、本心がよくわかり  
ません。

## A

学校がつまらない、というのは、友だちがいないとか、勉強がわからないと  
か何らかの原因があると思いますが、原因を追究するのではなく、子どもの気  
持を汲み取って一緒に考えてみる必要があります。そのため、子ども、保護  
者、学校の担任と通訳を入れてよく話すことが大切です。学校にはカウンセラー  
がいるので、子ども自身の悩みを聞いてもらうような面談もできます。

日本生まれや幼児期から日本で育った子どもの場合、子どもは日本語が上達  
して話せるが母語がほとんど話せない、保護者は仕事に忙しく日本語が話せな  
いという言葉の問題で、親子間のコミュニケーションがうまくできず、相互理  
解が困難な場合があります。

その結果、学校での状況や複雑な思いを伝えられなくてわかってもらえず、  
悩む子どもたちもいます。また、子どもが日本語も母語も話せる場合でも、学  
校の面談で子どもを通訳にすることは避けたほうがよいでしょう。子どもの自  
尊感情を損なう恐れがあります。学校側と正しい情報や理解・協力を得るため  
にも通訳を頼む必要があります。

---

## Q5

生活保護を受けています。高校生がアルバイトをしても大丈夫でしょ  
うか。

## A

生活保護は、世帯に収入があると保護費が見直されます。子どものアルバイ  
ト収入も世帯収入になりますが、収入認定額の算出には、未成年控除や基礎控  
除があります。保護費がどう変わるのか、役所の保護担当者に相談しましょう。  
重要なのは、事前に担当者にアルバイト収入を申告することです。

なお、生活保護を受けていると、その後のビザ（在留資格）の変更や、日本  
国籍取得にはマイナス要因となり難しくなります。生活保護に頼る生活から抜  
け出せるように支援していきましょう。

## Q6

大学に合格したのですが、入学金と授業料の支払いが困難です。貸してくれるところはないでしょうか。

## A

大学に合格したらすぐに入学金として40万円～60万円を支払わないと合格が取り消されることがあります。前もってお金を準備することや日本学生支援機構の奨学金を予約しておくことが大切です。日本学生支援機構には入学時特別増額貸与奨学金というのがあり、在学中に予約しておけば、入学した5月ごろに50万円以内の金額をまとめて借りることができます。高校3年生のときに2回申し込み時期がありますが（4月から6月頃と、9月から10月頃）、1回目の予約採用に申し込むほうが良いでしょう。詳しくは高校の先生に相談してください。

また5月までのつなぎとして、合格時に日本政策金融公庫で借りることは比較的容易です。審査に通らない場合は、つなぎ融資申込先として、民間金融機関の学資ローン、社会福祉協議会があります。

日本学生支援機構の場合、奨学金といっても貸与型（借りて返す）ものが多いので、返すことを考えて、借りすぎないように注意が必要です。そのためにも、大学入学にかかる費用や奨学金のことについて、保護者が事前によく理解しておくことが重要です。

---

## Q7

ビザ(在留資格)が「家族滞在」なので、卒業後に就職ができないと言われました。大学受験をしたほうが良いですか。どうしたら良いでしょう。

## A

保護者のビザが「技能」などで子どもを呼び寄せると、その子のビザは「家族滞在」になります。入国管理局に資格外活動許可を申請すると、アルバイトなどで週28時間まで働けますが、就職はできません。また、その場合、28時間以上働くと、後にビザの変更に際してマイナスとみられ、変更できなくなりますので、28時間を守って働くようにしましょう。

また、このようなビザを持っている場合、一部を除いてほとんどの奨学金を受けられないので、蓄財がないと進学も厳しくなります。ビザ変更について、どのような方法や可能性があるのか、外国人無料法律相談などで専門家のアドバイスを受けて準備をすることが必要です。



## 多文化家族支援ハンドブック

---

発行日：2016年3月31日

発行者：NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ

〒247-0007 神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1

地球市民かながわプラザ NPO などのための事務室内

TEL・FAX / 045-896-0015

協力：NPO 法人 ABC ジャパン 社会福祉法人青丘社

執筆者：井草 まさ子 武 一美 藤浪 海 三木 紅虹 藪崎 千鶴子 渡辺 裕美子（五十音順）

イラスト：日下部 友葵

デザイン：スタジオクッカバラ

---

多文化家族支援ハンドブック